

§ 3 小柴地区

1. 広域的な位置づけと周辺地域の状況から見た特性

(1) 広域的な位置づけ [⇒前述ふりかえり]

- ・かつては海に面していた連続した海食崖の最南に立地、台地の端に位置しており水循環の観点からも重要
- ・横浜市の「緑の七大拠点」に含まれる拠点の中央部に立地

(2) 周辺地域の状況から見た特性 [⇒P58～63 参照]

■水・緑

- ・かつては海に面していた川崎市から連続する旧海岸線に沿った台地端部に、断続的に分布する崖線緑地の最南に位置する中核拠点
- ・『緑の七大拠点』*1のひとつである「小柴・富岡」拠点の重要な一翼を担う位置
- ・多様な樹林地、汽水域の干潟、海浜、島嶼等、海岸から海辺に連続する台地を含む緑地軸を形成

■オープンスペース

- ・北端の富岡総合公園から、長浜公園、南北に縦断する金沢緑地、称名寺市民の森、海の公園、野鳥公園等、公共的に管理された公園緑地群が連続して形成
- ・特に海辺では、市民のみならずより広域利用者に対するレクリエーションエリアとして広く利用に供されている

■周辺地域からの交通・アクセシビリティ

- ・鉄道、自動車アクセスともに非常に優れている

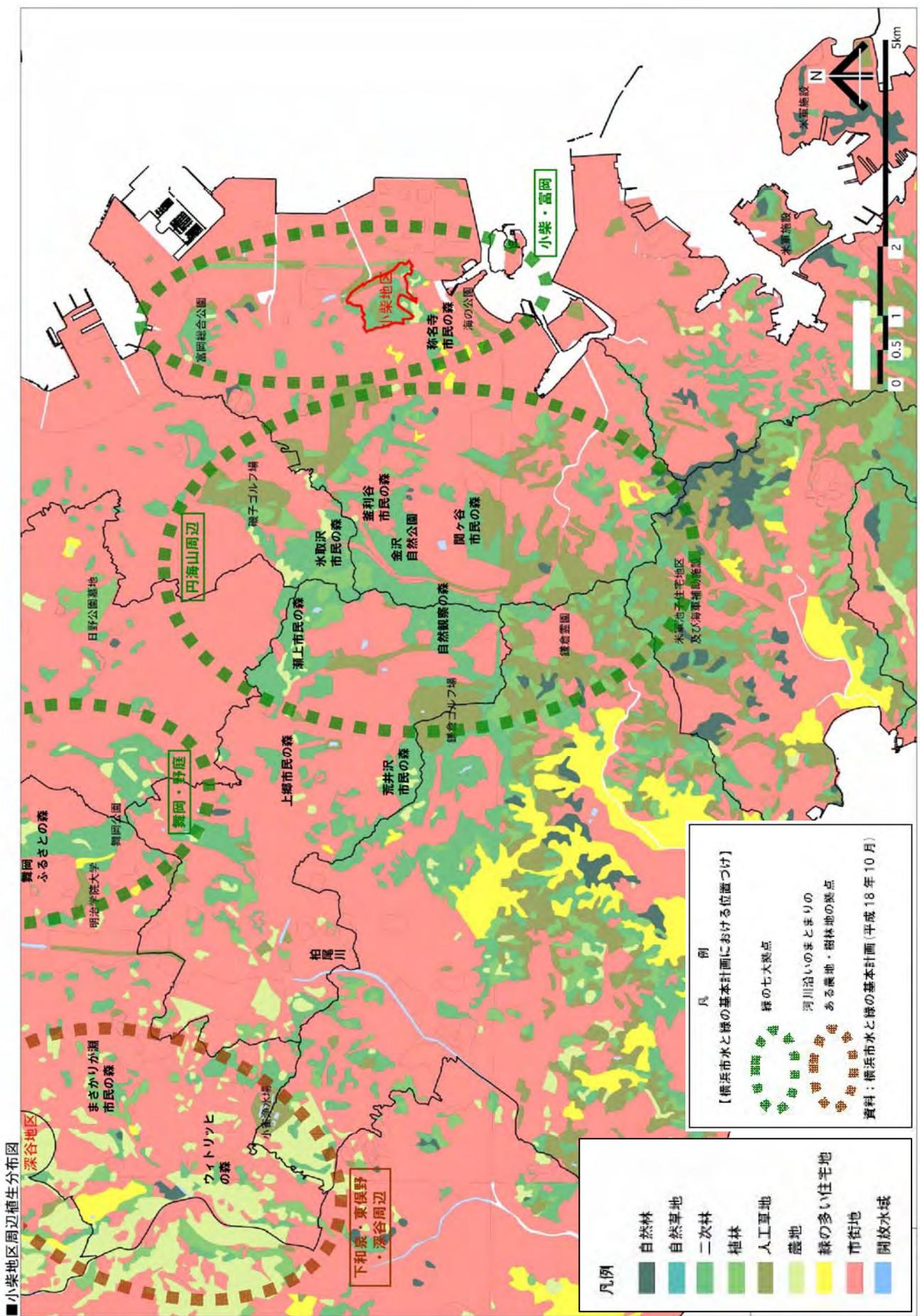
■周辺地域の市街地状況

- ・海側は、埋立地における工場・事業所、内陸側は中高層住宅地として計画的な整備
- ・山側は、計画的な戸建住宅地が整備され、良好な低層住宅地が形成

注 *1 「緑の七大拠点」：横浜市水と緑の基本計画（「平成18年12月」において、「確実に継承する緑」として位置づけられている拠点区域

■小柴地区（空中写真）





出典：環境省生物多様性センター・自然環境情報GISをもとに作成

■小柴地区周辺オープンスペース分布図

